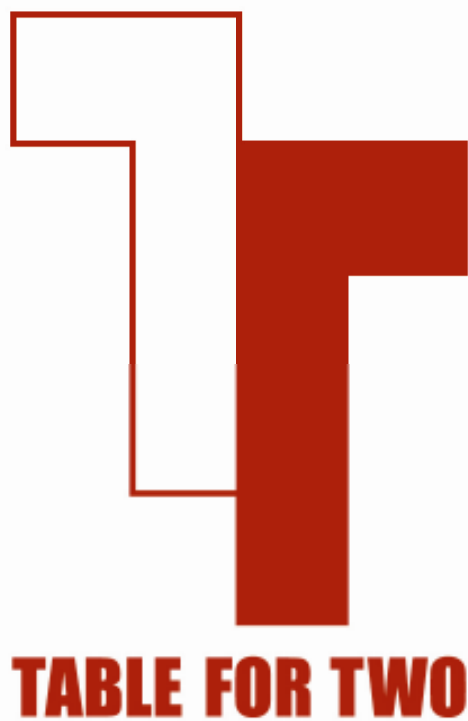


TABLE FOR TWO 2008 年度 年次報告書



目次

1.	ご挨拶	3
2.	TABLE FOR TWO―「二人の食卓」が目指すもの	4
3.	TABLE in AFRICA―支援先アフリカでの給食事業報告	
	―3.1 どこを支援しているのか?	5
	―3.2 なぜ「給食」を支援するのか?	6
	―3.3 子どもたちは何を食べているのか?	7
	―3.4 誰が給食事業を運営しているのか?	8
4.	TABLE in JAPAN―日本での事業報告	
	―4.1 社員食堂プログラム	9
	―4.2 社員食堂以外の新たな取り組み	13
	―4.3 啓蒙事業の開始	15
	―4.4 TFT を支えてくださる方々	16
	―4.5 2008 年度会計報告	17
5.	「二人の食卓」を広げるために	18

1. ご挨拶 — 日頃の感謝の気持ちをこめて

代表理事：近藤 正晃ジェームス



おかげさまで、テーブル・フォー・ツアの趣旨に賛同し、健康的な食事を提供して頂ける組織が100を超えました。テーブル・フォー・ツアを導入すべく、組織の中で説得、調整して下さった全ての方々に、まず御礼を申し上げたいと存じます。

また、食堂やレストランで健康的なメニューを作って下さったシェフ、栄養士、スタッフの皆様。深く感謝申し上げます。そして、その健康的なメニューを実際を選んで、食べて下さった皆様。本当にありがとうございました。健康的な食事をとることは、我々の健康を守り、生活習慣病を防ぐために、何よりも大切なことです。ご自身のため、ご家族のため、職場の仲間のためにも、ぜひ継続して頂きたいと願っております。そして、そのことにより、栄養失調に苦しむアフリカの子供たちに学校給食が届けられます。既に、その数、60万食以上。皆様の1食が、彼らの1食を支えているのです。テーブル・フォー・ツアを「日本発世界」の大きな社会運動とすべく、これからも頑張ってお参りたいと存じます。引き続き皆様のご支援を賜りますように、お願い申し上げます。

理事・事務局長：小暮 真久

昨年、支援先のアフリカ3ヶ国、ウガンダ、ルワンダ、マラウィの学校を訪問し、給食の様子を見てきました。どの学校も市街地から離れた農村地域にあり、深刻な貧困の状況にあります。農村地域の子どもたちの多くは、日々の食事のままならない状況にあり、普段は食料確保のため家族の農作業を手伝っています。

日本であれば食事が食べられて、学校に行って勉強して、といった当たり前のことが、これらの国では当たり前のことではないのです。その子どもたちが、学校給食がはじまったことで、学校に通うことができるようになっているのです。「1日で唯一の温かい食事がお腹いっぱい食べられる」、貧困に苦しむ子どもたちには学校に通う十分な理由になるわけです。両親にとっても、それはすごく助かることです。



学校に行けば子どもたちは自然と勉強し、友達と遊び、先生と相談をします。教育を受けて成長できる機会が初めて与えられるわけです。給食を食べて一生懸命勉強をした子どもたちは、やがて高等教育に進学し、英語を勉強し、良い仕事につけるようになります。貧困のループが抜け出せるチャンスが得られるのです。

未来への希望を感じている子どもたちの目はきらきらしていました。笑顔がとっても素敵でした。これらは、すべて皆様からの温かいご支援によってなりました。貧困脱出の鍵となる給食を、一人でも多くの開発途上国の子どもたちにプレゼントできますよう、今後も是非ご支援の程、宜しくお願いします。

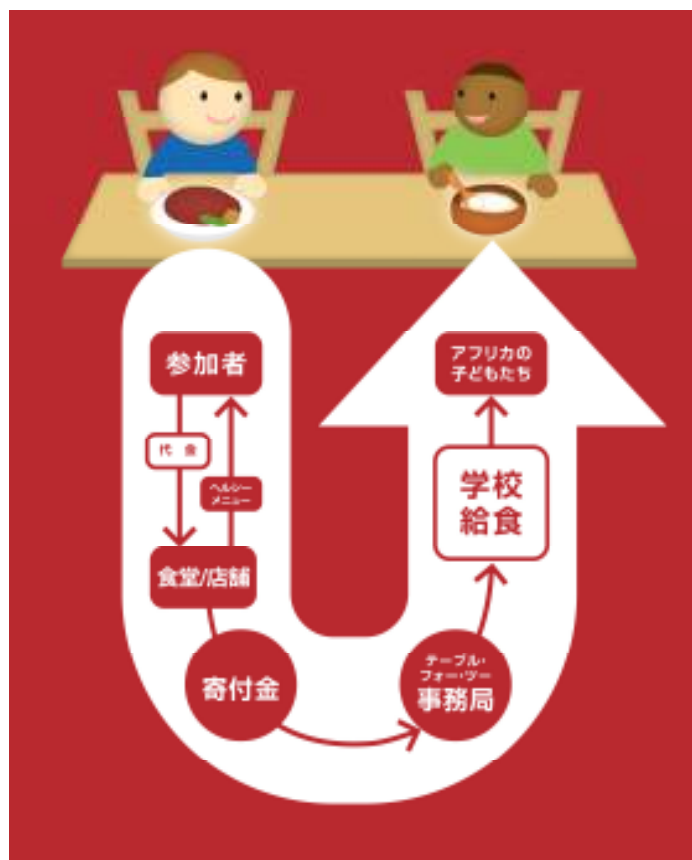
2. TABLE FOR TWO — 「二人の食卓」が目指すもの

世界人口約67億人のうち、10億人が飢餓・貧困に苛まれている一方で、10億人が飽食社会の中で肥満・生活習慣病に苦しんでいます。これは、世界の食料配分の不均衡によって生じた問題です。開発途上国では食が不足し、先進国では食が過多で命が失われる対照的な世界の実態が存在します。TABLE FOR TWO（以下、TFT）は、食の不均衡を解消し、開発途上国と先進国双方の人々の健康を同時に改善することを目指す日本発の社会事業です。

先進国にいらっしゃる参加者の皆様には、肥満や生活習慣病予防のためにランチのカロリーを抑えていただき、抑えたカロリー分を栄養豊富な給食にして開発途上国の子どもたちに届けます。先進国の参加者と、地球の裏側にいる開発途上国の子どもたちが、時間と空間を超え食卓を囲み、食事を分かち合うイメージから「二人の食卓」を意味する「TABLE FOR TWO」という名をつけました。

私たちは、TFTの仕組みを国内外に広げることで、世界の飢餓・栄養失調と肥満・生活習慣病の解消に貢献します。同時に、人々がTFTの食事を選択することで、世界の食の不均衡と相互依存を実感し、地球市民としての自覚が生まれる意識改革を目指します。さらには、日本から世界に広がる社会事業を成功させることで、日本の市民社会のさらなる発展の触媒となります。

【TFTの仕組み】



3. TABLE in AFRICA — 支援先アフリカでの給食事業報告

3.1 どこを支援しているのか？

TFT では、アフリカのウガンダ、ルワンダ、マラウイの3か国の給食事業を支援しております。この3か国は、以下3つの理由のもと選定いたしました。

深刻な貧困
状況が生じて
いること

● 貧困の被害を最も受けやすい子どもたちに焦点を当て、国内の子どもの2割が基準体重値を満たしていない点を、貧困レベルを評価する指標としております。

● UNDPのHuman Development Index(2007-2008)によると、基準体重値に満たない5歳未満の子どもたちは、ウガンダ、ルワンダに23%、マラウイに22%存在します（米国には2%）。

政情が安定
していること

● TFTでは、支援国内にクーデタや紛争などが起きていないこと、もしくは直近で起こっていないことを確認します。

● 支援する給食事業の運営では、安全なロジスティクス網や人材確保が必須となります。そのためには、比較的政情が安定していることが求められるのです。

給食事業の管
理・報告体制
が整備されて
いること

● 日本国内で集められた寄付金が、現地でどのように使われ、どのような効果を生みだしているのか、支援者の皆さんに対し報告をすることが、運動を継続していく上で重要であると考えています。そのために必要な情報を収集するには、現地で管理、報告体制がきちんと整備されていることが必要になります。

● TFTでは現地との定期的なコミュニケーションに加えて、4半期に1度現地視察を行い、事業の実施状況を確認します。



3.2 なぜ「給食」を支援するのか？

栄養・健康

1日1回、果物や野菜を食べるだけなど、**量も質も不十分な食事**しかとることができませんでした。

両親にも「栄養」という概念がなく、とにかくお腹を満たされればよいという認識で食事をするため、**栄養も非常に偏っていました。**

就学率

アフリカの農村地域の子どもたちは家庭の労働力として期待され、ヤギや牛の世話、畑仕事などの手伝いをしていました。**学校に行けるのは一家の中で長男だけというのが普通**でした。

両親にしても、働き手である子どもたちには家にいてほしいが、**まともな食事は与えられないという悪循環**に陥っていました。

教育の質

学校に行けたとしても、給食がないために、午前もしくは午後の半日しか授業を行うことができず、**子どもたちに対し十分な教育を施すことができない状況**にありました。

また子どもたち自身も、日頃からエネルギー源となる食べ物を摂取できていないため、**勉強への集中力も低下**していました。

給食を導入したことで…

給食 1食あたりのカロリーは、**約 1000～1500 キロカロリー**。タンパク質やビタミンといった様々な**栄養素も強化**してあります。

給食のおかげで子どもたちの**栄養状態は改善し、健康増進**につながりました。

子どもたち自身にとって給食の時間は、学校に行く楽しみとなりました。親にとっては食事提供の負担が軽減されるため、**学校へ行かせることに前向き**になりました。

TFT が支援をする小学校では、給食導入後の半年から1年で**生徒数が2倍近く増加した学校**が多数あります。

午前午後の両方で授業を行うことが可能となり、食事をとることで授業中の**集中力も高まりました**。

支援先のある小学校では、最終学年の子どもたち50人のうち、42人が高等教育への進学試験に合格するという、**優秀な成績**を修めることができました。

事務局長が目にした、子どもたちの変化

現地視察を行った際に印象的だったのは、給食を食べて一生懸命勉強し、友達と一緒に遊ぶ子どもたちの目がきらきらと輝いていることでした。また、現地の両親や先生たちによると、高等教育に進学した子どもたちは振る舞いが立派になり、流暢な英語を話しはじめるため、子どもたちの憧れ「村のヒーロー」になっているそうです。「村のヒーロー」になることが子どもたちの夢となり、将来を切り開く希望になっています。皆様からの支援で届けられた給食を食べて勉強し、村のヒーローになった子どもたちが、将来国を背負って立つリーダーになっているかもしれません。

3.3 子どもたちは何を食べているのか？



TFT が支援を行うアフリカの学校の子どもたちは、現地由来の伝統的な調理法、材料を用いて作られたポシヨ（ウガンダ・ルワンダ）や、お粥（マラウイ）を学校給食の主食として食べています。

ポシヨやお粥は、トウモロコシ粉をもとに作られています。ポシヨとは、トウモロコシの粉をお湯で練って作ったお餅のようなものです。お皿一杯で大人でも満腹になるほどボリュームがあり、1食で1,000～1,500 キロカロリーのエネルギーを摂取することができます。

また、できる限り多くの栄養素が摂取できるよう、白インゲン豆のスープや大豆の粉末をかけることでたんぱく質を加えたり、学校菜園で栽培した青野菜でビタミンを添加したり、様々な工夫をしています。

「温かい」給食を提供する意味

支援地域で上記のポシヨやお粥のように、お湯をわかして作る温かい食事を作るのは、簡単な事ではありません。食材の調達に加え、火を起こすための薪取り、水汲みなどの大変な準備作業が必要になります。

そのため一般の家庭では、温かい食事を食べることは「日常の当たり前」では決してありません。普段は調理の手間がない果物（例：バナナ、マンゴー）や、野菜（例：アボカド、トマト）などをそのまま食べる程度です。

学校給食は、子どもたちが一日の食事の中で唯一温かいものを食べられる貴重な機会なのです。



植民地時代の負の遺産

～「食」に対する誤った考え

マラウイで一人のお母さんと話をしていた時、子どもたちには砂糖入りの紅茶を飲ませることが一番の食事だと言っていました。腹もちも良くなく、栄養も何もない紅茶をなぜそのような考えるようになったのでしょうか。

それは紅茶や砂糖というものが、かつて植民地時代の入植者たちしか手にすることができなかった高級品であったためです。

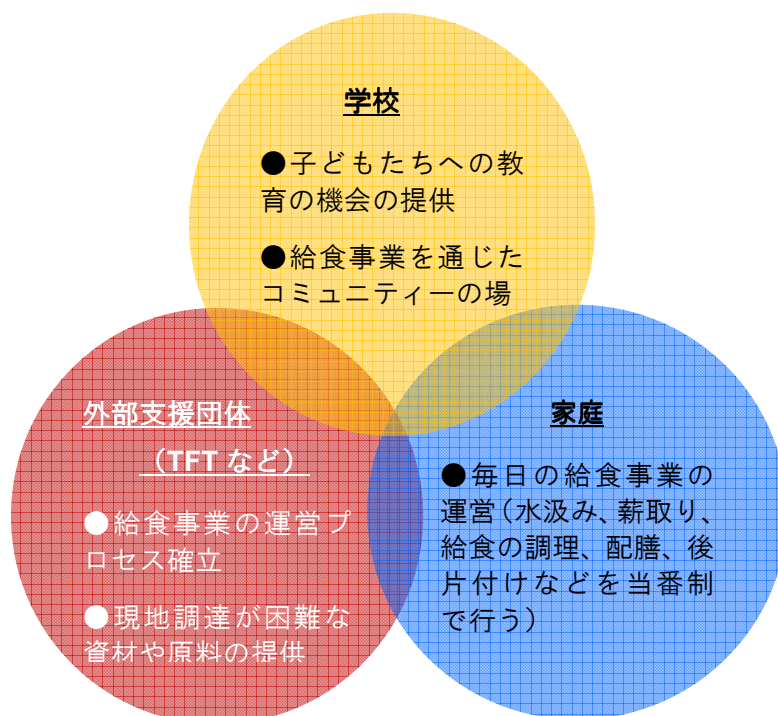
このようなお母さんたちの「食」に対する誤った考えを改めてもらうことも、子どもたちの健康状態改善には欠かせないことなのだと気付かされました。



3.4 誰が給食事業を運営しているのか？

給食事業は、**現地の人々と学校、私たち外部支援団体の協力のたまもの**です。TFTでは持続可能な貧困解決を目指しており、将来的には学校や地元住民の手により学校給食配布が継続できるよう様々な工夫をしております。

すべてを外部からの支援で賄うのではなく、資材の調達や給食調理室の運営をできる限り現地の人々、特に子どもたちの両親からの協力を得て実施するようにしています。



皆様からの寄付金の一部は、給食の原材料費に加えて、こうした給食事業を運営するために必要となる人件費や資材費にも使用しています。例えば、両親への給食運営の指導、トレーニングを行う管理者の人件費や、給食を作るのに必要な調理器具の購入や運搬にかかる費用などです。

TFTが支援する3ヶ国の農村地域では、給食事業を立ち上げるための資金や知識が圧倒的に不足しています。事業を立ち上げるための資金提供と教育支援を行い、これがいずれ軌道に乗り定着した後は、現地の人たちが自分たちの力で給食事業を続けていくことを目指しています。

皆様からお預かりした寄付金は、子どもたちの将来の希望となる給食配布に加えて、給食事業を根付かせるための礎にもなっているのです。TFTでは今後とも、現地の人々が自立的に給食事業を実施できるようになるまで、継続的に支援を行ってまいります。ぜひ皆様からも温かなご支援を継続いただけることを願っております。

4. TABLE in JAPAN — 日本での事業報告

4.1 社員食堂プログラム

TFTの日本での核となっている事業が、社員食堂プログラムです。社員食堂プログラムでは、社員食堂においてヘルシーメニューを提供することで、メタボリック・生活習慣病の予防を行います。同時に、ヘルシーメニューの代金の中から1食につき20円の寄付金を頂戴し、TFTを通じてアフリカへ学校給食を届ける活動です。

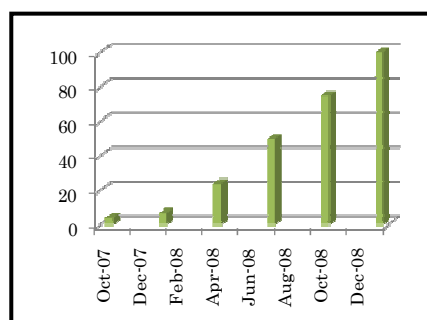
2008年12月までに、国内の民間企業、官公庁、地方自治体、病院、大学など102団体にプログラムを導入していただきました。プログラム開始当初は、首都圏を中心とした民間企業に導入いただいておりますが、その後、メディア掲載や導入企業からのご紹介などにより、北海道から九州に至るまで、全国に広がりました。

広がりは民間企業だけにとどまらず、衆参両議院において超党派の議員連盟が結成されたことがきっかけとなり、国会や議員会館の食堂にも導入されました。また、中央省庁や地方自治体、病院や大学の食堂など、様々な業界に広がっています。

参加団体の内訳（2008年12月時点）

民間企業	69
大学	13
官公庁・地方自治体	12
病院	3
その他	5

参加団体数の増加



2008年末までに皆様からの寄付で**34万食（約1,600人の子どもの1年分の学校給食に相当）**の給食をアフリカの子どもたちに届けることができました。これは同時に、のべ34万人の方にTFTにご参加いただいたこととなります。皆様のご協力に深く感謝いたします。

以下、参加者の皆様より頂戴したご意見をご紹介します。

「今までは恥ずかしくて募金箱などがあったても、まあいいかなあと思っていた。これは毎日の食べることだし、食べるのが好きなので、すごく自然に気軽にできた」

「大きい僕のような人には若干物足りないと感じたが、これもダイエットのためと思えば我慢しようかなと。しかも世の中の役に立っているのだから」

「20円プラスするのので低カロリーメニューを買う社員が減るか心配していたが、社員から『こういうのをやって欲しかった』、『会社がやってくれるのが嬉しい』と。励みになった」

「毎食の寄付金額は少額でも、継続的に行うことで、大きな結果が得られることを期待したい」
「飽食の時代に輸入に依存した日本の食文化を見直す機会になると思う」

TFT の特徴

- **参加しやすい**：ヘルシーなランチを選ぶだけで、自然に寄付ができる
- **継続しやすい**：抑えるカロリーも寄付する金額も無理のないレベル
- **共感を得られやすい**：日本人が提唱した、日本発の社会貢献運動

2008年1月から12月までの1年間、以下の企業・団体の食堂にてTFTプログラムを導入いただきました。（※以下、各カテゴリ内での並び順はご参加順です）

企業

伊藤忠商事株式会社
 日本アイ・ビー・エム株式会社
 株式会社ファミリーマート
 JAL
 NEC
 中央三井信託銀行
 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
 東京海上日動火災保険株式会社
 株式会社りそなホールディングス
 日立建機株式会社
 株式会社アルバック
 株式会社ホテルオークラ東京ベイ
 埼玉りそな銀行
 毎日新聞社
 近畿大阪銀行
 豊田通商株式会社
 京都新聞社
 株式会社中村屋
 野村総合研究所
 積水化学グループ
 積水化成工業株式会社
 積水樹脂株式会社
 住友化学株式会社
 株式会社日本政策金融公庫
 めむろ新嵐山株式会社
 株式会社ホテルオークラ神戸
 アサヒビール株式会社
 株式会社日立製作所
 三井住友海上火災保険株式会社
 株式会社リクルート
 株式会社デジタル
 大塚製薬グループ
 株式会社ハタノ製作所
 マルヤス工業株式会社
 グーグル株式会社
 野村ホールディングス株式会社
 大日本スクリーン製造株式会社
 エスエス製薬株式会社
 三井物産株式会社
 トップラン・フォームズ関西株式会社
 ソニー株式会社 仙台テック
 日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社
 株式会社ニチレイ
 住友商事株式会社
 ソニーイーエムシーエス株式会社
 HSBC グループ
 西濃運輸株式会社
 株式会社遠鉄百貨店
 長瀬産業株式会社

日本交通株式会社
 コニシ株式会社
 株式会社 NTT データ
 株式会社損害保険ジャパン
 株式会社ジーエス・ユアサコーポレーション
 アメリカンファミリー生命保険会社
 株式会社ニチレイフーズ
 住化不動産株式会社
 株式会社キャリアサポート
 住友化学労働組合
 朝日化学工業株式会社
 住化加工紙株式会社
 住化アルケム株式会社
 住友タウ株式会社
 株式会社住化技術情報センター
 住化カラー株式会社
 株式会社住化分析センター
 住化農業資材研究所
 日建設計総合研究所
 株式会社トクヤマ

ほか1社

官公庁、地方自治体、非営利組織

参議院	横浜市職員厚生会
外務省	相模原市職員厚生会
経済産業省	文京区役所職員互助会
中央合同庁舎7号館	
財務省	埼玉県年金福祉協会
農林水産省	社会福祉法人武蔵野
防衛省共済組合	独立行政法人
国土交通省	宇宙航空研究開発機構
特許庁	独立行政法人国際協力機構

学校

大妻女子大学	花園大学
大阪成蹊大学	京都造形芸術大学
京都学園大学	明治国際医療大学
京都光華女子大学	京都外国語大学
京都市立芸術大学	清泉女学院大学・短期大学
京都精華大学	学校法人聖カタリナ学園

International School of Sacred Heart

病院、その他

医療法人社団ワイズレディスクリニック
 飯沼病院
 医療法人財団 白十字会 佐世保中央病院
 かつみ工房

以下の企業・団体では、2008年1月から12月までの1年間、**食堂を運営する給食会社**としてTABLE FOR TWOのヘルシーメニューを開発・提供いただきました。

企業

ユーレストジャパン株式会社
 西洋フード・コンパスグループ株式会社
 株式会社 NEC ライベックス
 かをり商事株式会社
 エームサービス株式会社
 株式会社グリーンハウス
 株式会社中央グリーンハウス
 シダックス株式会社
 ハーベスト株式会社
 株式会社日京クリエイト
 日本給食サービス株式会社
 株式会社魚国総本社
 東京ジューキ食品株式会社
 株式会社不二家商事
 ジャパンウェルネス株式会社
 株式会社セブン&アイ・フードシステムズ
 株式会社藤給食センター
 LEOC グループ
 ロイヤルコントラクトサービス株式会社
 東京ケータリング株式会社
 フジ産業株式会社
 一富士フードサービス株式会社
 株式会社テストイバル
 株式会社マックス
 株式会社エル・スエヒロフードサービス
 阪急産業株式会社
 泉レストラン株式会社
 東京ビジネスサービス株式会社
 株式会社メフォス
 株式会社レパスト
 栄食メディックス株式会社
 株式会社サンマーチ
 新大阪食品産業株式会社
 テルウェル東日本株式会社
 株式会社コスモテック
 株式会社ニッコトラス
 栄食メディックス株式会社

その他

JAL 生活協同組合
 トヨタ生活協同組合
 レストランモア
 初花
 安具楽
 津田川
 せきね
 食堂 あきもと



2009年からは、以下の企業・団体にもご参加・ご協力いただいております（2009年4月15日時点）。

実施企業・団体

国立大学法人熊本大学
独立行政法人理化学研究所
株式会社高島屋
厚生労働省
大和市
財団法人恵和会
ジーイー横河メディカルシステム株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社フジテレビジョン
内閣府
三井生命保険株式会社
カバヤ食品株式会社
医療法人白十字会 白十字病院
信金中央金庫
東京ガス株式会社
法務省
シャープ株式会社
社会保険中京病院
日本郵船株式会社
株式会社ラッシュジャパン
財団法人学校福祉協会
株式会社日立プラントテクノロジー
ジェコス株式会社
千代田化工建設株式会社
学校法人城西大学
ボッシュ株式会社

給食会社

熊本大学生生活協同組合
栄養食株式会社
株式会社タカシン
株式会社安田物産
有限会社和
株式会社アール・ティー・コーポレーション
株式会社レクトン
銀座スエヒロカフェテリアサービス株式会社
株式会社フジランド
株式会社東岡山給食センター
日本ゼネラルフード株式会社
株式会社南テストパル
大一食品株式会社
株式会社丸の内ポールスター
株式会社久仁加食品
ウオクニ株式会社

古川武行
片桐博文
宮島貴之



参議院議員会館での実施風景



りそな銀行 東京本社での実施風景



京都外国語大学での実施風景

4.2 社員食堂以外の新たな取り組み

社員食堂をお持ちでない組織や団体でも、配達弁当や、社内の喫茶スペースなどを使ってプログラムにご参加いただきました。

会議での TFT

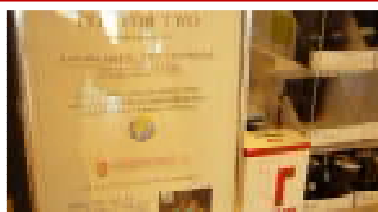


ダボス会議などの国際会議や、国内で開催されるカンファレンスやフォーラム、社内会議など、様々な場でプログラムを導入いただきました。

次のページでご紹介させていただいている既存 TFT 認定商品をご購入いただく場合もあれば、独自でケータリング会社さんやお弁当業者さんにご相談いただき、新たにメニューを開発いただく場合もあります。

日本から世界へ発信していく社会貢献運動として、国内外問わず様々な場所で積極的にご実施いただきたいと考えております。

CUP FOR TWO



社員食堂のない企業にご参加いただく方法として、エスエス製薬株式会社の皆様と一緒に作らせていただいたプログラムです。

ヘルシードリンク 1 杯につき 20 円の寄付が、TABLE FOR TWO を通じて、開発途上国の子どもたちの朝のおかゆ 1 杯に生まれ変わります。

エスエス製薬株式会社では、2008 年 8 月より喫茶スペースのコーヒーでご実施いただいています。

これに続き他社でも、社内の自動販売機のうち 1 基の商品をすべてヘルシーなものに変更、「CUP FOR TWO 自動販売機」という形で導入いただきました。

また、一般の方が利用されるレストランやカフェでもプログラムを導入いただきました。

レストラン・カフェでの TFT



ホテルオークラ神戸「レストラン・カメラリア」や JICA 広尾「カフェ・フロンティア」といった、一般の方にも気軽にご利用いただけるレストランやカフェで TFT メニューを導入していただいております。

ホテルオークラ神戸のレストラン「カメラリア」では、ヘルシーながら大変豪華なメニューで、利用者の方にもご満足いただいております。

また JICA 広尾「カフェフロンティア」では世界各国の料理を楽しむことができます。どちらも社員食堂プログラムと同様、1 食につき 20 円が寄付に充てられます。

TFT では今後もレストラン等を始めとした外食産業へのプログラムの導入を目指し、多くの一般の方にご参加いただけるよう活動を広げてまいります。

一般の方にさらに気軽に TFT に参加いただけるよう、外部の方と協力して以下のような新しい取り組みも始めました。

ヘルシー食品の 宅配サイトとの コラボレーション



オイシックス株式会社とのコラボレーション

2008年8月より、TFT 認定商品としてカレー、ベーグル、アサイージュースなどを開発いただきました。

各商品のカロリーが簡単にわかるよう☆マークが表示されていて、カロリーを計算して購入できるようになっています。売上の3%が寄付として設定されており、例えばベーグルとジュースなど1食分をセット購入いただくと、約20円＝給食1食分が寄付できるようになっています。

株式会社スマイルダイナーとのコラボレーション

11月より、生活習慣病予防のカロリーコントロール商品を TFT 認定商品として指定いただいております。

対象商品を同社サイトよりご購入いただく際に、購入者に任意で TFT に参加するかどうかを選択いただきます。参加ボタンを押していただいた方のみ寄付金の10円が代金に加算されます。同時にスマイルダイナーからも10円を寄付、1食につき20円が寄付される仕組みになっています。

フレンチの巨匠・ 三國シェフによる ランチボックス HAPPY FOR TWO



フレンチの巨匠・三國シェフがランチボックス「HAPPY FOR TWO」を開発、日本橋三越「ミクニ」にて、5月から7月までの期間限定で販売していただきました。

メニュー開発の際は TOKYO FM にご協力いただき、同局の番組内で、「あなたにとっての幸せな食卓」というテーマでリスナーからご意見を募りました。そこからインスピレーションを得た三國シェフが、色鮮やかなメニューをデザインしていただきました。販売時には、ランチボックス1つにつき20円の寄付金が付与されました。

2009年度は、コンビニチェーン「スリーエフ」にて、4月の1か月間限定で三國シェフが新たに開発したTFT 認定メニュー商品を販売いたします。アフリカの食材や調理法を盛り込んだお弁当やパスタ、ドリア、サラダ、デザートなど、幅広いラインナップになっています。

TFT の活動領域を広げることに多大なるご協力をいただきました三國シェフには、TFT のアドバイザーに就任いただくことになりました。

TFTの新しい形を一緒に模索してくださった皆様には、心より感謝申し上げます。これからもこのような取り組みを増やし、一人でも多くの方にご参加いただけるよう工夫を重ねてまいります。

4.3 啓蒙事業の開始

世界における食の不均衡の問題や TFT の活動内容をご理解いただくことを目的に、イベントを 3 回開催させていただきました。この場で生まれたつながりがいずれ大きな輪となり、食の不均衡解消に向けた大きな原動力になると期待しております。

5 月



5 月には勉強会を開催しました。コロンビア大学地球研究所所長のジェフリー・サックス教授をお招きし、アフリカの現状と今後の開発支援のあり方について意見交換をさせていただきました。

9 月

9 月にはフォーラムを開催、株式会社三井物産戦略研究所所長兼財団法人日本総合研究所会長の寺島実郎氏に、「全員参加型秩序と TFT」というトピックでご講演いただきました。



12 月



12 月には「アフリカン・クリスマス」と題し、クリスマスパーティーを開催しました。参加者の方々に支援先小学校の様子、そしてアフリカ文化を体感していただこうと、写真パネルの展示や学校給食「ポシヨ」の試食などを行いました。

「ポシヨを堪能できて良かった。自分の会社の仲間にもこのような機会を提供し体験してもらいたい」、「アフリカの食事や音楽を楽しみつつ、支援している現地の様子を知ることができた」といったご感想をいただきました。

「TASTY BLOG」キャンペーン



2008 年 12 月の 1 か月間限定で、バズマーケティングのアライドアーキテクツ株式会社とのコラボレーションキャンペーン「TASTY BLOG キャンペーン」を実施いたしました。

キャンペーンの内容は、アライドアーキテクツの展開する口コミマーケティングモール「モニタープラザ」において、企業主催のプロガー企画への子どもにプレゼントできるというものです。プロガーには、世界の食料問題やヘルシーな食生活について考えていただき、積極的な意見を投稿していただきました。

結果、1 か月間のキャンペーンを通じ 4,554 食の学校給食をアフリカの支援国に送ることができました。今後もこのようにユニークな企画を通して、TFT の認知を広げてまいりたいと考えております。

4.4 TFTの運営を支えてくださる方々

実施企業の皆様や事業提携をさせていただいている皆様の他に、TFT がこれから大きく成長していくにあたり、非常に心強いサポートをくださっている方々を以下にご紹介させていただきます。TABLE FOR TWO 運動の輪を広げ、社会事業を育成するためには欠かせない方々です。深く感謝申し上げます。

パートナー

TABLE FOR TWO の活動をさらに推進していくための活動資金をご提供いただいております。

- **プレミアム・パートナー**

マルヤス工業株式会社

- **パートナー**

伊藤忠商事株式会社

株式会社ルネサンス

木下哲夫様

株式会社ポーラ・オルビス

ホールディングス

株式会社シーズメン

(※お申込順)

プロボノ

プロフェッショナルサービスのご提供を通じ、事業のサポートをいただいております。

- **ロゴ、ポスターデザイン**

MP Creative

- **WEB 制作**

Outblaze

- **法務ご相談**

相澤 光江 弁護士

村瀬 悟 弁護士

- **ブランド管理、商標登録**

渡辺 伸行 弁護士

佐藤 俊司 弁理士

サポーター

TABLE FOR TWO の活動は、想いに共感してくださる多くの方々のご協力によって支えられています。

本業から離れたところで、食堂への導入をはじめ様々な TFT の事業を推進してくださる会社員の方々、イベントの運営をお手伝いくださる学生さん達、事務作業やレポートの発送作業を引き受けてくださるボランティアの皆さん、運営費を継続してご寄付いただける仕組みを考えてくださる支援者の方など、本当にたくさんの方々のお力をいただき、活動が成り立っています。

イベントサポート

イベント会場や商品が無償でご提供いただきました。おかげさまで、無事にイベントを開催することができました。

- **会場**

HSBC グループ

- **ドリンク**

アサヒビール株式会社

株式会社マックス

エスエス製薬株式会社

- **食品**

株式会社三真

- **調理器具**

コラムジャパン株式会社

4.5 2008年度 会計報告

(単位：千円)

2008年1月1日-12月31日

1. 収入		24,126
(1) 給食事業寄付金	11,953	
(2) 運営寄付金	7,273	
(3) 啓蒙事業	2,520	イベント参加費等
(4) 会費・入会金	2,370	
(5) その他	10	

2. 支出		27,682
(1) 給食事業寄付金	10,758	開発途上国への寄付金
(2) 啓蒙事業経費	1,656	イベント開催費(会場費他)等
(3) 人件費・外注費	11,881	人件費(常勤2名、非常勤3名)、 外部への業務委託費(かわら版印刷費 や税理士相談料等)
(4) 事務所管理費	2,342	家賃、光熱水費、通信費、リース料等
(5) 活動費	493	旅費交通費、会議費等
(6) その他	552	租税公課・振込手数料等

次期繰越	△ 3,556
-------------	----------------

第2期となる今期(2008年度)は、NPO法人を設立して初めて1年間を通しての活動の収支報告を提出することができました。結果として収入が24,126千円、支出が27,682千円となり、結果として3,555千円の赤字となりました。

収入におきましては、食堂でのTFTメニューによる給食事業が11,953千円と予想を上回る数字を計上できました。また立ち上げ期の収入不足を補う事業運営への寄付金を7,273千円頂戴いたしました。

支出におきましては、開発途上国への寄付金としては10,758千円を計上、また啓蒙事業費として1,656千円、また人件費・外注費(かわら版印刷費等)、事務所管理費、活動費の合計で14,716千円を計上いたしました。

よって主たる給食事業においては、11,953千円の収入に対して、10,758千円の途上国への寄付を実施し、収入の10%に当たる1,195千円を運営管理費に充当させていただきました。

来期(2009年度)に向けては、単年度収支を黒字化することを第一の目標としつつ、収入をさらに増やすため、食堂での給食事業実施企業数を拡充することはもちろん、食堂以外での給食事業の拡充を図るほか、新たな収入事業を積極的に実施したいと考えております。また運営管理費を補うため、新たなパートナー企業や個人の方々からの寄付もさらに募っていく所存です。

5. 「二人の食卓」を広げるために

TABLE FOR TWO 運動をさらに広めるべく、2009 年度も邁進してまいります。引き続き、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

給食事業

食堂プログラム

- 200 団体以上での導入
- 合計 200 万食（約 9,000 人の子ども 1 年分の給食）以上を支援先学校に届ける
- 米国でのパイロットの実施
- アジア、ヨーロッパ展開にむけての準備開始

その他

- CUP FOR TWO の拡大 - 100 団体以上での導入
- コンビニでのブランド商品販売
- 通販でのコラボ商品販売

啓蒙事業

イベント実施

- TFT 実施企業ご担当者向け情報交換会
- アフリカ学校給食体験イベント
- クリスマスイベント
- 全国での講演会

その他

- メディアコミュニケーション - 出版、通信物の刊行など
- 大学連合の設立

組織財務

- 年度収支黒字化にむけて
 - 給食事業、給食以外の事業収入の増加
 - パートナー企業の増加
 - 運営の効率化
- サポーター、ボランティア制度の整備、拡充